

南海トラフ沿いの大規模地震の
予測可能性に関する調査部会
第8回議事録

内閣府政策統括官（防災担当）

南海トラフ沿いの大規模地震の予測可能性に関する調査部会（第8回）
議事次第

日 時：平成25年1月18日（金）15:00～16:34

場 所：中央合同庁舎5号館3階 特別会議室

1. 開 会

2. 議 事

- ・南海トラフ沿いの大規模地震の予測可能性について
- ・その他

3. 閉 会

1. 開 会

○藤山参事官 それでは、定刻となりましたので、ただいまから「南海トラフ沿いの大規模地震の予測可能性に関する調査部会」第8回会合を開催いたします。

委員の皆さんには何度も御多忙の中、御出席いただきましてありがとうございます。

まず最初にお手元に配付しております資料の確認をいたします。

議事次第、座席表、委員名簿。

非公開資料が1と2、ナンバリングしてございませんが、修正を施したものをお配りしているところです。

議事に入ります前に議事概要、議事録の公開、非公開について確認をさせていただきます。

議事概要は発言者を伏せた形で公表、議事録につきましては検討会終了後1年を経過した後、発言者を記して公表することとなります。

なお、本日の資料につきましては全て非公開資料となっております。

本検討会の報告につきましては、事務局の都合で何度も公表の時期を変更いたしまして申しわけありません。報告の最終的な公表の日程、時期については、報告先であります南海トラフ対策ワーキンググループと、行政としてどう取り扱うかも含めまして御相談をしなければいけないことがありますので、また決まりましたら委員の皆様には御連絡を差し上げたいと思います。よろしくをお願いします。

これ以降の進行は山岡座長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

2. 議 事

○山岡座長 それでは、本日の議事に入ります。

本調査部会の報告書案について審議を行います。報告案の審議は事務局より報告案の修正点について説明をしていただき、その後の各章の文案について議論を行いたいと思います。本日は第8回目ということで、何回も集まっていたいただきありがとうございました。

それでは、事務局から報告案の説明をお願いいたします。

○下山参事官補佐 日本語的な修正については今回、細かく御説明しませんが、まだ送らせていただいたものから結論が出ていないところがございます。

「7. 南海トラフ沿いの大規模地震の規模と発生時期の予測可能性に関する科学的知見」ですが、見え消し版ですと26ページ、見え消し反映版ですと24ページになります。橋本先生からコメントをいただいたのはこちらです。下から2つ目の○「東北地方太平洋沖地震の知見から考えると」という段落の部分です。ここで橋本先生から右側に書いてありますとおりコメントをいただきました。ここの部分の記述をどのように直すかというところについて、まだ事務局から修正案を提示していないところです。

関連して1つ上の○の部分ですが、こちらも同じように検知能力の話で、観測点を増やすことにより検知能力の向上が期待できるという趣旨の記述が残っておりまして、こういった趣旨のことは以前に委員から御意見いただき、枠囲みから削除したのですが、ここでは残っているということで、ここの部分の記述も含めて御議論いただければと思います。

まず上からいきます。上の部分は念のため読み上げますと「紀伊半島沖や豊後水道のゆっくりすべりが加速して大規模な地震に至る場合もあることが、シミュレーションから一つのシナリオとして示されている。しかし、現状の観測点配置によるこの地域におけるゆっくりすべりの検知能力は上述のとおり東海地域に比べて低い。ひずみ計など地殻変動の観測点を増やすことにより検知能力の向上が期待できる」。

○横田参事官 案は「ひずみ計」から削除しておきますか。事実だけ書いて「期待できる」の一文を削除。

○山岡座長 増やせば検知能力の向上は当たり前と言えれば当たり前なので、書いても間違いではないというだけのことで、それはどうなのですか。間違いではないと思うけれども、ここは余り引っかかりはしなかったのですが、間違いが書いてあるわけではないですね。

○横田参事官 「比べて低い」だけで終わると締りが悪いかなというぐらいで、事実で「低い」まででとめるのも1つです。

○松澤委員 ほかの文章を直すかどうかにもよるのですけれども、確かにトーンがほかとは少し違っているような気がします。何も考えないでさっと読めば全然気にならないです。

○山岡座長 論理的に間違っていないですし、後ろのほうの解説なので、これは余り重要でないというか、どちらでもいい。特に書いてあっても問題はないような気がします。

○橋本副座長 私もここは引っかからなかったです。

○山岡座長 ということで、これはこのままで個人的には問題ないと思います。

○下山参事官補佐 次の段落を念のため読み上げます。

「東北地方太平洋沖地震の知見から考えると、本震の発生前に長期的変化が現れる可能性がある。例えば、ゆっくりすべりの発生や活動変化、地震活動の静穏化、地球潮汐と地震活動の相関の高まり、b値の減少等長期的変化が現れる可能性がある【図7-2】。これらの項目を総合的に監視することで、地震前の中・長期的な異常を捉えられるかもしれない。ただし、これまでの地震活動の状況と現在の観測体制を考慮すると、南海トラフ沿いで観測される地震は数が少ないため、地震活動の静穏化、地球潮汐と地震活動の相関の高まり、b値の減少のように地震活動の観測に基づく変化の検出は、現状の観測体制では困難である可能性が高い」。

橋本委員からいただきましたコメントは、「現状の観測体制」が二度出てくる。また、この論旨では観測体制が万全であれば、地震活動のいかににかかわらず、検出できるとなります。この認識は学術的に正しいと思えません。この問題は結局のところ、南海地震の数十サイクルを経る数万年にも及ぶ観測データに基づいてしか結論が出ない問題と思いますが、いかがでしょうかというものです。

○山岡座長 この○の論旨から言うと、東北地方太平洋沖地震のときには、このような地震活動の変化が観測されましたという事実と、南海トラフでもし地震活動が多ければ、変化があらわれるかもしれませんねという2つのポイントと、もう一つは現状の観測点では余り地震活動を捉えることはできていないという3つ目だと思うのですが、3つ目に関しては堀さんが何か言っていましたね。

○堀委員 少なくともDONETで観測しているところに関しては、気象庁とかで決めているものに比べて2けた、下手したら3けたぐらい地震を検知できる数も多いので、それに関してはこういうふうに言われると、そんなことはないと言いたくなります。

○山岡座長 論旨としては、東北地方太平洋沖地震ではこのような観測がされた。南海トラフにおいてもDONET等の観測によると従来よりも地震活動が捉えられているので、地震活動に何らかの変化があるかもしれないと書く。最後どう書くかですよ。前半2つは事実で、3つ目に地震活動が捉えられる可能性があるかと書くか、研究する必要があると書くか。

○橋本副座長 これは要するに「ただし」以下の文章の考慮する条件が2つあって、この2つが問題なので困難であるということになるのだけれども、後ろで困難であると否定している部分が観測体制だけなのです。だからこの文章自体が片手落ちというか、そんなふうに感じたのです。それで引っかかったのです。

要するに観測体制をクリアすれば、静穏化云々というのが逆に読めるというふうに解釈できるのです。

○山岡座長 でもそこは捉えられるかもしれないというところですよ。だから、捉えられるかもしれないということが何をあらわすかということ、観測体制を整備すれば捉えられるというふうに読める。

○橋本副座長 そうです。それだけが十分条件のように思える。

○山岡座長 だとすると、例えば南海トラフにおいてもDONET等の地震観測網、海底観測網が整備され、従来よりも地震活動が観測されるようになってきた。

○橋本副座長 そうすると、これまでの地震活動の状況というのが何を指すか問題になってくるので。

○山岡座長 だから私の提案は「ただし」以降は全部割愛して、真ん中辺の「捉えられるかもしれない」までは生かして、その前にDONETの記述を入れたらどうでしょうか。

○長尾委員 多分、橋本さんが一番気になっているのは、観測体制に触れているからだと思うのです。どんなに地震観測網を整備しても、東北地方と比べて南海トラフでは相対的に地震活動が低いのは事実です。そういう書き方であれば「予測は困難である可能性がある」とか「困難であるかもしれない」とか「困難である可能性が高い」ぐらいだったら。

要するに観測体制ではなくて、どんな観測体制を整備しても多分、南海トラフのほうが普段は低いわけですね。そうすると体制の問題ではなくて、まずはテクトニクスが違うという意味であればいいのかなと思ったのです。

○橋本副座長 だから両方言わないといけないのです。先ほどの繰り返しになりますけれど

ども、テクトニクスの違いと観測体制と両方をちゃんと考慮した文章にして、最後の締めにしてあげなければいけないということです。

○井出委員 これは前提を「仮に」にすれば全然問題ないと思っているのです。これまでの地震活動の状況と現状の観測体制を考慮すると、南海トラフ沿いで観測される地震の数が少ないため、仮に地震活動の静穏化、地球潮汐云々があったとしても、現状の観測体制では検出は困難である。

○山岡座長 堀さんはどうですか。もう少しDONETの記述を入れてほしいみたいな。

○堀委員 不十分なのは確かで、DONETがないところはもちろん捉えられない。

○松澤委員 私も井出さんの意見に賛成で、地震活動の静穏化からb値の減少までの説明がすごく長いので「少ないために、仮に大地震の前に地震活動の変化があったとしても、その検出は現状の観測体制では困難である可能性が高い」ぐらいではいかがですか。

○山岡座長 では、それで直してみましよう。

○横田参事官 「高い」というのを「可能性がある」ぐらいでもいいですか。

○井出委員 「困難である」でいいのではないですか。

○橋本副座長 可能性に関する表現は厳密に取り扱わないと本当はまずいと思うのです。

○山岡座長 JAMSTECはどう考えていますか。例えばDONETとかDONET2の下では変化は検出できているかと思うか。

○堀委員 できているからやっているわけですけども。

○山岡座長 変化による予測が困難なのか、変化の検出が困難なのかは違うと思うのです。だからDONETが海底で整備された現状では、変化の検出は多分できるだろうというのが堀さんの見解。

○井出委員 仮にあればね。

○山岡座長 今あるから、ある場所に対して。

○松澤委員 仮にあればというのは、相関があればということでしょう。

○井出委員 変化があれば。変化がなければ見つからない。今では変化があっても見つからない。

○山岡座長 DONETがあるものを現状と思うかどうかで、これはどう考えた方がいいのですか。

○横田参事官 まだ一部だという整理でいいのですね。十分でない。

○堀委員 そういう整理であるということであれば。

○山岡座長 だからDONETみたいなものがもう少し広範に整備されれば、変化は捉えられるかもしれない。

○横田参事官 現状は困難。

○橋本副座長 現状では要するにそれだけ統計的に処理するだけの基盤的なものがないので、どうしようもない。だけれども、DONETが整備されて10年、20年運用されれば、そういう基盤的なものが出てくる可能性はある。そういう基盤的なデータはやられる。そういう共通認識でいいですか。

- 山岡座長　そういう趣旨の文章になるといいのですが。
- 横田参事官　そういう趣旨であるとする「困難である。」でいいですか。
- 橋本副座長　現状だと困難ですからね。
- 下山参事官補佐　反映してみます。
- 堀委員　別にしてほしい気もします。検知する話をここにするのかということにもなるので。
- 橋本副座長　やはり東北のものはDONET云々ではなくて、もう少し広域の地震活動の話なので、その辺もまた混乱するのです。
- 堀委員　観測体制は2つ上のところにすべりのことだけありますけれども。
- 山岡座長　DONETについて○を1つつけて、何か記述すればいいですか。そこら辺が何も書かれないのはちょっと。
- 堀委員　何も書かれずに「困難である」だけだと。
- 山岡座長　「DONETの整備によって従来捉えられていなかった海底下の微小地震活動も捉えられるようになってきた」みたいな表現を一言入れておくと、堀さんの主張には沿った形になります。事実としてこれを入れている。そうすると上の文章はそれでもいいかなと思います。どうでしょうか。
- 井出委員　ただ、途中って入れておいたほうがいいですね。できてしまったという感じだと。
- 堀委員　「熊野灘においては」とか、一部だというのがわかるように。どう言えばいいですか。
- 井出委員　「できつつある」とか。
- 下山参事官補佐　前の○の中ぐらいからもう一度読み直します。
- 「これらの項目を総合的に監視することで、地震前の中・長期的な異常を捉えられるかもしれない。ただし、これまでの地震活動の状況と現在の観測体制を考慮すると、南海トラフ沿いで観測される地震は数が少ないため、仮に地震活動の静穏化等の変化があったとしても、現状の観測体制ではその検知は困難である」。
- 堀委員　「これまでの」から「考慮する」までは要らないのではないですか。
- 下山参事官補佐　「ただし」の後に「南海トラフ沿いで観測される地震は数が少ないため」にします。
- 次の○も念のため読みます。「DONETの整備が進められており、従来捉えられていなかった海底下の微小地震活動も捉えられるようになりつつある」。
- 山岡座長　よろしいでしょうか。ここはそんな形で。
- 下山参事官補佐　では、次に「おわりに」の部分で、見え消し版ですと27ページの番号が入っております。
- 決定論的という趣旨の部分をもう少しやさしくできないかとお尋ねしていた部分、いただいた御意見なども踏まえたのですが、また元の文章に戻した部分もありまして修正して

おります。

1つ目の○〔地震の規模や発生時期の予測の可能性〕を御議論いただきたく思います。事務局のほうで修正した案を読み上げます。

「一般的に、地震の規模や発生時期の予測は不確実性を伴い、直前の前駆すべりに基づく決定論的な手法により、地震の発生時期等を予測することは一般的には困難である」。

途中、事務局修正案で「精度よく」等を入れた案をお示ししていたのですが、元に戻した形になります。

○山岡座長 我々的にはこれでいいと思いますが、要するに一般の人にこれで通じるかというのが事務局の問いかけだったと私は理解していますけれども、これでよいと判断されたならこれでいいと思います。

○横田参事官 これで行ってみようかなど。

○井出委員 この上のピンクの2つの○というのは、余り私は今まで覚えていないのですが、

○横田参事官 ピンクの1つ目の○は、もともと大綱のこの検討をするに当たっての東南海・南海の大綱があります。その大綱の一番頭「はじめに」をそのまま持ってきました。

○井出委員 しかし、この中では割と東海地震に関してはクエスチョンマークを随分つけたような気がするので、それをこのままここに「東海地震と」と書くのはよろしくないと思います。最初のモチベーションが何であったにせよ、東海地震と東南海・南海地震が連動して発生する可能性が生じてきているなんて、この委員会で結論が出るわけがないと思っています。

○山岡座長 もとからそのような認識はあった。

○橋本副座長 「おわりに」に持ってくるのではなくて。

○井出委員 経緯とかそういうところでこれがあるのは別に構わないと思います。これは結論ではあり得ない。

○横田参事官 南海トラフが発生する地震の連動性の次の2つ目の○は、この前議論した最後のものを上に持ってきたのです。

○井出委員 2つ目の○は多分、議論した内容と合っていると思います。

○横田参事官 1つ目の○は、その上の経緯を書く形の中に入れますか。

○山岡座長 そのほうが素直ですね。それと対応して2つ目の○をここで議論したので、その2つを比較すれば1番目のようなことが一般にはそうだなと思うところです。

○横田参事官 消してくれますか。頭に書くのも経緯を書くのも邪魔くさそうなので1回取ってしまって、それで見てみましょう。

○井出委員 その上も別に連動性ではなくて多様性でよいのではないかと思うのですが、そこは何で多様性ではなくて連動性になっているのかわからないです。多様性だと思います。

○山岡座長 従来は便宜上、東海地震、東南海地震、南海地震と3つに分けて、それらの

組み合わせで南海トラフの巨大地震を表現するというやり方をとっていた。ここではそういう立場をとらずに、結論としては今のような結論になる。ただ、これを従来との流れで解釈すると、先ほどの文章みたいなことを言っても悪くはないと私は思うけれども、ただ、ここで書くかどうかというだけのことだと思いますから、要するに従来、東海地震、東南海地震、南海地震と分けてきたことに対して触れるか触れないか。これだと基本的にはその立場をとらないで、もう少し原理原則的な表現にした。けれども、従来10年間そういうふうに言ってきたわけだから、それに対してどう表現するかということで事務局案は先ほどの1つ目の○を書いたと思うのです。

○井出委員 こういうことを書いてもいいけれども、書くのだったらもう少し注意して書かないとだめだと思います。少なくとも東海地震という言葉に注釈なしに使うということはありません。

○山岡座長 どうしたらいいですかね。これを触れる必要があるか事務局も考えて御意見をいただきたいのですが。

○横田参事官 「はじめに」の頭のところであわせて山岡さんに説明いただくときに、そのくんだりから来て、今回検討した結果こうですということであれば、特に今回はいいですかね。むしろ議論していないところがあるので、今後の例えば東海地震であるというようなことも何も議論していないから。

○山岡座長 だから「はじめに」で外から見て、この検討会のミッションとしては東海地震、東南海地震、南海地震が連動して発生することはあるのでしょうかというのも、1つの疑問だったわけです。それに対してここでは過去の事例から見て多様性があり、同時にあるいは時間差を置いて地震が発生することがあるというのを結論としている。これは解釈をすればそのとおりですよ。連動することもありますよということが答えですね。それを明示的に書くか、読み比べればわかるというふうにするかというだけの問題だと思います。

○堀委員 多様性の中に、最初の文章だと限定してしまっている。ここと、ここと、こことみたいなことではないことも我々は考えていますので、だから事実的にも違うと思います。同じことを言ったことにはならないというか。

○山岡座長 わかりました。けれども、問いに対してはそういうこともありますよということで、それをここに表現するかどうかだけ。

○堀委員 議論のきっかけとしては、こういう問いかけがあったということをおわりに」の最初の文章に持ってくる。どうしても残したいのであればね。

○山岡座長 それと見比べると、そのとおりです、そういうこともありますよというふうに読めればいい。

○横田参事官 文章の「はじめに」の第1パラがありますね。枠の中です。

○藤山参事官 一番最初に同じ文章があります。

○横田参事官 その同じ文章を書くとする、それを書いて「本調査会では～主なポイント

トは次のとおり」。この「おわりに」だけ見ても読めるようにするとすると「はじめに」の頭をそのまま入れてしまう。「はじめに」の第1パラを「本調査会」の前。

○山岡座長 前回のワーキンググループで中間報告をしたときにも、連動するんですかどうですかというような質問を受けたような記憶が。

○藤山参事官 連動するんですかというクエスチョンは必ず来て、そのクエスチョンに対しては多様性があるんですよと言うのですね。

○山岡座長 連動することも1つであると。

○藤山参事官 ですから、その連動というのはさまざまな多様性がある中の1つですという言い方になります。

○横田参事官 井出さんが言っていた、現状の○で書いてしまうと東海、東南海、南海の3つが必ず連動するというふうに誤解を与えてしまう。

○井出委員 そういうフレームがあるというメッセージを与えてしまうということで、そんなフレームはないんだということをむしろ。

○横田参事官 ここのところからは、多様性があるという部分の下側だけで基本的には十分だろうと。

○井出委員 多様性があるという、ここからはそれで十分です。

○横田参事官 検討した結果は、多様性があるのだと。

○井出委員 はい。

○堀委員 「はじめに」をこちらに持ってくるかどうかは別として「はじめに」の最初が。

○井出委員 でも、それだとするともう一言、フレームを肯定するようなことはしたくないので、東海、東南海、南海以上のバリエーション、多様性がある可能性もあるというくらいのことを言うておくほうがいいと思います。そのままだとYESと答えるだけでは我々の議論はもう少しまともなことをやったと思いますので。

○堀委員 先ほど言いかけていたのは、始まりがあれだと、やはりそれを我々が言ったように思われるので、鍵括弧から始める。ワーキンググループから始めてもらったほうがいい。

○橋本副座長 ワーキンググループの認識としてそういうものがあって、それを受けて議論したとはっきり書いてほしいということですね。

○横田参事官 これを言ったのは、大綱で言っているのです。

○山岡座長 10年前の大綱でそう書いてある。

○横田参事官 「大綱では」というふうに一言入れれば。

○山岡座長 それだけではありませんよということですね。

○横田参事官 先ほどのものにそれを入れて「南海トラフの地震の発生には多様性があり」に何かもう一言。

○井出委員 そうですね。そこまで上に書いてあるのだとしたら、それだけではないということは書く必要がむしろあるのではないかと思います。

○長尾委員 一般の人は東海地震と想定東海地震の区別はつかないのではないか。これを書き出すと本当に收拾がつかなくなるのですけれども、東海地震というものがあっても、それと連動的なふうに読めるのです。それはだから過去に東海地震というものが、想定がつかない東海地震というものが、その問題はどうしますか。要するにこれは河田先生の委員会だけに出すのであればいいのですけれども、国民の方が見るとすると。

○山岡座長 だからそこでの解決策は「大綱において」というところで逃げる。

○松澤委員 大括弧でくくって大綱の文章をそのまま引用していただければ、それでいいのだと思います。

○長尾委員 あとはもし用語集に想定東海地震を。

○井出委員 でも、大綱におかしなことが書いてあっても大綱だから認めるというのは、私はあり得ないと思います。

○松澤委員 認めるという意味ではなくて、大綱でそうなっているのでこの委員会ができているというロジックです。それを認めたか否かはその後ろで書けば。

○下山参事官補佐 今、大綱の文章をそのまま打っています。

○井出委員 それはやはり「はじめに」だから「おわりに」ではないですよ。長いです。要らないと思います。もし何かのサマリーをつくる時に必要だったら、それをそのときに足すようなものではないですか。これは「おわりに」にこれだけ書く必要はないと思います。

○堀委員 先ほど横田さんが言われた、この「おわりに」が独立でという。

○横田参事官 多分、この1枚だけがどこか使われるのだと思います。

○堀委員 それだったら逆に今、井出さんが言ったようにサマリーをちゃんと用意しておいたほうがいいと思います。これを使えという。

○横田参事官 いいですか。外に出す文章で要点をまとめたのはこれだけれども、この検討会はどういう経緯で始めたとか、過去どういうことがあったかという経緯は別に書いて、次のとおりということで「はじめに」と「おわりに」をくっつけるようなものを別途用意する。そうしましょうか。わかりました。そのとおりでいきましょう。

○山岡座長 そうすると井出さんの主張にも沿ったものができる。よろしいでしょうか。

○松澤委員 最後「多様性があり」で、その後ですけれども、同時に発生もしくは時間差を置いて地震が発生する可能性が高いと言い切ってしまうのですが、これは多様性がないように読めてしまうのです。

○堀委員 これはそのままではだめなのです。私も言おうと思っていたのですけれども、多様性があるということと、その中で。

○松澤委員 「多様性があるものの」とかだったら、少なくとも日本語的には意味は通じるけれども。

○橋本副座長 一たん切ってしまうて。

○井出委員 「四国沖にかけての複数の領域で」ですね。最後は「発生するさまざまな可

能性がある」ではないですか。

○橋本副座長 可能性はおかしいような気がするのです。「さまざまなケースがある」とか、可能性だといろいろなものの並列の可能性だから100%になってしまって、可能性という言葉ではなくなってしまふ。

○山岡座長 だからシナリオとしてはさまざまな場合があるという意味ですね。

○橋本副座長 「さまざまなケースが考えられる」ですかね。

○下山参事官補佐 読み上げます。

「過去の事例から見て、南海トラフの地震の発生には多様性がある。駿河湾から四国沖にかけての複数の領域で同時に発生、若しくは時間差をおいて地震が発生する等様々な場合が考えられる」。

○井出委員 「地震が」の位置がおかしいですね。2つ目のところに「地震が」があるのがおかしいですね。あるとしたら1つ目の「地震が同時に発生」。

○山岡座長 いいですか。

○松澤委員 これだと一番すっきりしているけれども、そうすると24ページで書かれていることとの整合性を考えなければいけない。7ポツの枠内の第2パラグラフのことを多分ここで言っていると思うのです。

○井出委員 「可能性が高い」の位置ですね。ここを言い回しとして同じように。

○山岡座長 ここを先ほどの表現に置きかえればいいですかね。ここでは豊後水道というのは消えるのか。基本的に先ほどの文章をここにはめればいいのではないですか。

○堀委員 ここだと四国沖であえてとめたことになるのですかね。

○横田参事官 過去の事例としては起きているのです。「過去の事例では」ですか。

○橋本副座長 7ポツでは豊後水道付近と書いてあるので、そこが問題。

○堀委員 豊後水道沖も四国沖には入ると思います。

○横田参事官 では四国沖だけでいいですか。

○井出委員 まとめのところでもう少しざくっと書いてもいいかとは思いますが、余りこだわらないです。

○下山参事官補佐 7ポツはこのままで。

○山岡座長 あとほかに何かありますか。

○下山参事官補佐 先ほどの修正をこちらで示したものに反映してみると、27ページ「8. おわりに」の先ほどの○の下なのですが、最初に「一般的に」と言っていて、後にもう一回「一般的には」と2回入ってきてしまっています。前を消しますか。後ろを消したほうがよろしいですか。

○横田参事官 何で後ろは入っているのですか。

○堀委員 多分、次が「南海トラフ域は」と言っているのです。

○山岡座長 だとすると最初を消してもいいのではないですか。

ほかに何か事務局としてここは未確定であるというのがありますか。

- 下山参事官補佐 関連して用語集になります。見え消し版で言うと35ページです。
- 山岡座長 用語集は余り議論したことはないですけども、このまま授業に使いたいくらいよくできているなと思いました。
- 横田参事官 1つだけ、地震発生時期等の決定論的予測というのは、この下に書いてあるのは前駆すべりをもとにした予測のことだけ書いているので、その頭に前駆すべりと。
- 山岡座長 前駆現象だということですね。
- 横田参事官 ワードを整理しないといけないです。
- 下山参事官補佐 前駆すべりで統一していたのですが、ここは直します。
- 山岡座長 ゆっくりすべり、何とかすべりというのを前駆すべりにして。
- 横田参事官 さまざまなものを入れたときは、複数になったら現象と。
- 山岡座長 ここは「前駆すべりによる」というふうにしたいわけですか。
- 横田参事官 はい。
- 下山参事官補佐 あと、この〇〇を入れ忘れていました。これはIUGGの正式名称を後で入れようというところが入れていなかった。
- 山岡座長 例えばJordan et al. でもいいのだけれども、どちらにするのか。
- 下山参事官補佐 論文でも。
- 山岡座長 これはどちらを使っていますか。Jordan et al. はオリジナル。
- 井出委員 Jordan et al. は例えば2つ下のVANのところにも書いてあります。引用文献の中にあるのですね。
- 松澤委員 下の決定論なのですけども、辞書では確かにこうなっているのですが、哲学の世界での決定論の定義であって、我々のここで書いてあることとは少し違うような気がするのです。
- 井出委員 用語必要ですか。
- 山岡座長 上の文章でわかると思うのです。
- 横田参事官 ここは消しておきますか。
- 山岡座長 だから前駆現象か否かを評価し、二者択一で宣言をするというのが決定論。
- 横田参事官 一応これを書いて、先ほどの決定論を残そうと思ったのです。言いかえようとするといろんな違う言葉が入ってきているので、何かややこしくなりそうなので。辞書には頭に（哲）と書いてあります。
- 山岡座長 こんなところでしょうか。
- 下山参事官補佐 残りは日本語の修正のつもりで変更している部分ですが、委員の皆様から修正した文章がよくないとか、意図が変わってしまうというものがあれば、そういったところを御議論いただければと思います。
- 山岡座長 余り時間がないところがあるので、特に今日は個別に見ていきませんけれども、全体として何かお気づきの点があったら出していただければいいかなと思います。事務局からの問い合わせは一応これでおしまいですか。

○松澤委員 24ページがPのままになっています。

○下山参事官補佐 そうですね。山岡先生からコメントいただいた部分です。24ページの枠内です。

○山岡座長 これが要るかどうかです。私はなくてもいいというか、全体を読んでここで引っかかって、これはなくてもいいのかなと思ったのですけれども、皆さんどうお考えでしょうか。

○堀委員 確度が高いという話とも関係すると思うのですけれども、ここで言っているいろんなことが起こり得るとか、不確実だとか、いろいろ言っていることが実際問題どういうことを意味しているのかというのは、なかなか伝わりにくくて、これが入っているとわかりやすいとは思っています。

○山岡座長 その点は同意します。

○堀委員 でも、そういうことを目的とした文章を入れるかどうか。

○山岡座長 全体の中で少しトーンが違うというか、浮いている感じがしたので引っかかったということですが、事務局の見方からしてこれはどういうふうに。だから、今、堀さんがおっしゃったようなことは私もそうだと思いますけれども、全体の流れとしてこういう文章はあったほうがいいのか。

○横田参事官 これは当初からペンディングのままになっていて、あったほうがわかりやすいよね。でも、なくてもいいよねという部分なので。

○藤山参事官 全体の流れから違和感があります。

○横田参事官 なくてよいなら取ってしまいませんか。

○松澤委員 章のタイトルが科学的知見となっていて、ここでインプリケーションが入ってくるのは何となく違和感があります。どこかでインプリケーションを入れたいけれども、そのインプリケーションは私たちがやることなのかどうかということは、最初から議論になっていたと思うので。

○堀委員 これの解説をするときに。

○山岡座長 こういうことですよというふうに。いわゆる従来言われてきた「見逃し」と「空振り」というものに対して、「空振り」とかそういう言葉を使って解説するかどうかですね。ただ「見逃し」と「空振り」はどちらかと言うと決定論的な言い方とかなり密接に関係してくるので、そういう意味でも少し引っかかったのです。

さらに「空振り」と「見逃し」という部分は検出だけではなくて、それで宣言をすることに関係した表現だから、そこも引っかかっていて、3つぐらいで引っかかって、これはなくてもいいかなというふうに、済みません、少し面倒くさくなって、これを書くといろいろとまた言いわけをしなければいけなくなるので、ないほうがいいかなと思ったのです。

ですので、そういう意味で言うとこれは質問されたときの答えの1つに置いておくとして、文章からは削除していただいたほうが、割とすっきりとする気がします。いいでしょうか。せっかく考えていただいたのですけれども、ここは削除で。

- 堀委員 ほかに行く前に、7番の先ほど議論していた話ですけれども「可能性が高い」とここでは言っていて、8ではそういうふうには言っていないのですが、それもそのままです。
- 横田参事官 それは先ほど直すという話にしませんでしたか。
- 堀委員 それは合わせるのですね。
- 松澤委員 豊後水道はそのままにするけれども。
- 堀委員 そちらは変えるのですね。豊後水道の付近とかはそのままだけれども。
- 横田参事官 「発生可能性が高いと考える」のところを後ろの表現と。
- 堀委員 それがそのことですか。わかりました。
- 橋本副座長 あと、ここにいっぱい書いたのですけれども「確度」と「精度」の言葉づかいがよくわからなくて。信用の問題と測定の問題なので、微妙に違いますね。何気にずっと使ってきたのだけれども、最後になってどちらがどうなのだろうなと思ったのです。
- 横田参事官 「精度」はどこかで使っていますか。
- 山岡座長 「精度」は大分削られた。
- 横田参事官 「精度」は大分消したつもりでいたのです。
- 山岡座長 「確実度が高い」みたいな感じで表現しています。
- 下山参事官補佐 幾つかまだ使われています。用語集で少し。
- 松澤委員 「精度」はいろんな意味があるので、確かになるべく使わない方がいいですね。
- 横田参事官 「精度」は消す方向で整理したいと思うのですが。
- 下山参事官補佐 例えばシミュレーションによる予測可能性のところに「精度」は使われています。22ページの下から2つ目の○で「シミュレーションにより精度の高い予測を行うには」という。
- 橋本副座長 ここはいいですね。定量的に出てくるから。
- 松澤委員 シミュレーションで精度の高い予測を行うための前提条件の説明をしているところだからいいのかなと。
- 下山参事官補佐 あとはこちらです。
- 橋本副座長 「確度」というのはおかしいような感じがする。
- 山岡座長 それは何ページですか。
- 下山参事官補佐 23ページもシミュレーションの流れですが「シミュレーションによる精度の高い予測は困難だが」。一番下の○です。シミュレーションの話としては精度は。
- 橋本副座長 シミュレーションの精度だから、計算精度とかそんなものになってくるから、いいかなと思います。
- 下山参事官補佐 次もそうです。シミュレーションの絡みでの「精度の高い」。
- 山岡座長 確度というのは確率が高いというようなイメージで。
- 松澤委員 イメージもあるし、判断を伴うイメージがあります。精度は判断を伴って

ないから。

○橋本副座長 精度というのは誤差が少ない。

○下山参事官補佐 この7ポツの中で「精度」は25ページ。

○横田参事官 シミュレーション以外のところで使われているところがありますか。

○下山参事官補佐 この次ですね。「精度よく予測する」これは逆に確度ですか。

○横田参事官 ここはもともと何だったのですか。

○下山参事官補佐 ここは「詳しく予測する」というのを、山岡先生からこういう修正がありました。

○山岡座長 「詳しく」も引かなかったのです。「精度よく」もやめてもいいですか。

○下山参事官補佐 25ページの終わりから26ページにかけてで、26ページで言えば一番上のところです。

○山岡座長 つい使ってしまった。

○松澤委員 「高い確度で」とかですね。起こったり起こらなかったりすることとかが入っている話なので。

○山岡座長 そうしてください。

○堀委員 「決定論的な予測が難しいと言っていることと、確度が高い予測が難しいというのは近いと思っているのですけれども、そういう理解でいいですか。

○井出委員 本当はだから「確度」と「精度」のトレードオフの話がありますね。だから別に期間を長くすれば確度は幾らでも上がるので。本当は「精度」と「確度」なのですけれども、その積は一定みたいな話で。

○山岡座長 ここはいいですね。

○井出委員 普通の感覚もあるから、別に「確度」と言っていると思います。

○山岡座長 ほかに何かありますか。問題になっているのはここだけですか。

残りの時間で気がついたところを何でも言っていただければいいし、文章表現だったら最終的に。

○松澤委員 「てにをは」は最後にやるということでいいですね。

○下山参事官補佐 そうです。まだ少し漏れがあるかもしれませんが、そこは直させていただきます。

○堀委員 今の議論と関係があると思うのですけれども、見え消し版20ページ6番の真ん中あたりの「検知可能な」から先ですが「予測結果は不確実である」とか「予測結果は必ずしも確実なものではない」とか、このあたりの表現をどうするかということと、ここでの話が前駆すべりによって規模まで予測するという話になっているのかなっていないのか、どういうつもりで書いているのかが前から見ている文章なはずなのですけれども「ただし」の地震履歴に関する情報は十分得られていないから、大きい規模の前駆すべりが起こるか起こらないかとか、次に発生する地震の規模などの確からしい予測は難しい。

ここでの話は規模は別に前駆すべりとは関係なく言っていることですがけれども、この次

の話は最後のところで「したがって、前駆すべりから次の地震の規模や発生時期を高い確度で予測することは難しい」になっていて、この「したがって」からはどこまでを受けて言っているのか。

○山岡座長 これは大分最初の文章を短くしたので、若干の論理構造にはころびがあった可能性はあります。どう変えたらいいかを考えていただけると嬉しいです。

○松澤委員 ここは余り引っかからなかったのです。シミュレーションをやっている人は引っかかるのですね。

○堀委員 「ただし」からは予測結果は不確実である。これはこれで、不確実であるということがある。

○松澤委員 過去の履歴が得られていないからだけではないという、そういう趣旨ですか。

○堀委員 不確実だというのは、ほかでもそう言っているのでそれでいいのかもしれないですけども、必然的に幅を持ったものになるとか、平易な表現にするという、どうすれば平易な表現になるのだろうか。少なくとも別案の「予測結果は必ずしも確実なものではない」というのはよくないと思うのですけれども「必ずしも確実なものではない」と言うと確実なものもあることになるのですが、ここの趣旨はそうではなくて、確実に過去の情報とかは不十分なだから、予測というのは必然的にばらつきを持ったものになることが言いたいので、必ずしも確実なものではないというのはよくないのは確かなのですけれども、予測結果は不確実であるというので伝わるのであれば、それでいいのですが。

○山岡座長 予測結果は大きくばらつく。これではだめですね。

○堀委員 必然的に幅を持ったばらついたものになるということが言いたいです。

○山岡座長 私たちは「予測結果には幅がある」と言うのだけれども、それは平易ではないですか。

○堀委員 どうですか。それでいいならいいのですけれども。

○山岡座長 予測結果には幅がある。

○橋本副座長 それだと前駆すべり発生の有無に幅があることになってしまうのです。日本語としてはおかしい。ゼロイチなので。「不確実性がある」でいいのではないですか。でも、有無が不確実もおかしいですね。

○山岡座長 有無は不確実でいいのではないですか。

○橋本副座長 どちらもあるということで。

○山岡座長 予測結果は不確実である。

○松澤委員 若干、日本語がこなれていない気もするけれども。

○山岡座長 予測は不確実というのと、予測結果は不確実というのは違うのですか。私はこの結果に引っかかって。

○横田参事官 結果は消していいですね。

○山岡座長 結果は不確実である。それでいいですか。

それと「したがって」以降は。

○堀委員 「したがって」以降がどこからどこまでを受けているのか。

○山岡座長 「要するに」と言いたいのですね。

○堀委員 多分、この段落全部のつもりなのですね。でもそうすると前駆すべりから次の地震の規模を予測するという話はどこにもしていないので。

○松澤委員 前駆すべりが出るか出ないかすらもわからないからということも含めて言っているのでしょうか。

○橋本副座長 「また、複雑さ」云々というところで、一たん段落を切ったほうがいいのではないですか。別の話です。

○堀委員 確かにそうですね。「したがって」以下は要らなくて、どちらも高い確度の予測が難しいことは言っているのですけれども。

○長尾委員 ここだけ取り出すと、不確実であると切られると間違っているというイメージが素人的には。要するにかなりネガティブなトーンではないですか。「幅がある」というのが本当はいいのだと思うのです。

○山岡座長 「幅がある」にしたかったのだけれども「発生の有無」という表現が前にあるので「幅がある」だと合わないよねというので「不確実」にしたのです。

○井出委員 例によって「確度の高い予測は困難である」でいいのではないですか。「規模について、確度の高い予測は困難である」。

○山岡座長 どうでしょうか。

○横田参事官 有無が引っかかるのですね。「前駆すべりの発生には不確実性があり、次に発生する」。

○井出委員 そこを整合させるとすれば「発生確率」ですね。でも確率という言葉は使いたくないですか。発生確率を精度高く計算することができないのですね。イチゼロではなくてフラクションですよと。

○下山参事官補佐 一度反映してみます。

「ただし、過去の地震履歴に関する情報は十分には得られていないため、検知可能な前駆すべりの発生確率や、次に発生する地震の規模について確度の高い予測は困難である」。

○山岡座長 確率を予測するのはおかしいですね。

○井出委員 大体、発生の有無なんて議論をしてもしようがないではないですか。議論するとしたら発生時期。

○山岡座長 時期と書くと発生することを前提に時期と書いてしまうから、それがまたよくない。前駆すべりの検知可能性でもいい。どうですか。次に発生する地震の規模について可能性の予測というのもまた問題が。これは何を言いたいのか。

○堀委員 これは多分もっと長かったという話なので、規模の話も別にあつたのでしょうか。けれども、1個前の文章は。

○井出委員 「前駆すべりの規模や、その次に発生する地震の規模について」くらいだったらいいですね。結局それが検知できるかどうか。だから「検知可能な」は要らないわけ

です。

○松澤委員 この場合、前駆すべりは規模の大小はともかくとして、存在することを認めたように読めてしまいますけれども、それはいいですか。

○井出委員 規模は別に0.幾つからスタートすればいいので。

○橋本副座長 それはしかも地震モデルとか、堀さんがやってきたシミュレーションの場合ということですね。

○井出委員 実際に前駆すべりはあるわけです。

○松澤委員 このシミュレーションの世界ではあるからいいということですね。なるほど。

○山岡座長 後半はそれでいいですかね。

○下山参事官補佐 もう一度、見え消しに戻して確認します。この「したがって」の部分は削除するということですね。

今の部分を読み直します。「ただし、過去の地震履歴に関する情報は十分には得られていないため、前駆すべりや次に発生する地震の規模について確度の高い予測は困難である」。ここで別段落にして「また」で続けます。

○山岡座長 よろしいでしょうか。

○堀委員 1個前の文章が前駆すべりのことしか書いていないのですけれども、その前のところに次の地震の規模のことも入れるか、それとも「ただし」以下のほうで次の地震の規模を消すか、どちらかにしたほうがいいと思うのです。

○山岡座長 どうしたらいいですか。

○井出委員 前駆を議論しているときには、当然本体というのは念頭にあるから、別に唐突には思わないと思います。

○堀委員 含んでいると思ってもらえるのであれば。それに応じて、その後に引き続いて起こる地震もいろいろだというのが含まれているという意味ですか。含まれていると読めるというか。

○井出委員 前駆ですから前駆だけの話を。

○堀委員 そういうふうに違和感なく皆さん思うのであればいいですか。

○橋本副座長 前駆すべりには、それに引き続き発生する本震があるとか、そんなようなニュアンスにしたらどうなのですか。

○山岡座長 具体的には。

○井出委員 次に発生すると言ってしまうと。「対応する本震」とか。

○山岡座長 「引き続き発生する」とか、同じか。

○堀委員 そちらをそういうふう書いてもらえば、前のほうはそのままでいいですね。

○山岡座長 では、ここはいいですか。

全体を通してどこでも構いませんので、何か御意見があれば出してください。

○井出委員 「8. おわりに」のところで、一番最後の○なのですからけれども、ここで「いずれの場所で地震が発生するか、あるいはこれらが連動して発生するか」という「これら」

がよくわからない。

○山岡座長 これらというのは東海、東南海、南海という意味だと思います。それは日本語的にわからないということですか。それとも東海、東南海、南海と分けるのがけしからんという。

○井出委員 それも多少ありますけれども、それよりは日本語としてのほうが。だからそれぞれの地域の地震がとか、そういうことですね。

○横田参事官 先ほどと同じような表現ですね。

○山岡座長 「複数の領域で連動するか等」。だから場所と書くか領域と書くかという考え方があるのだけれども、領域のほうがおさまりがいいので、そうすると1行目は「いずれの領域で地震が発生するか、あるいは「複数の領域が連動して発生する」ぐらいにしたらどうですか。

○堀委員 上と合せて「駿河湾から四国沖にかけてのいずれの領域で」。

○山岡座長 「いずれ」と言うと整数だから。

○井出委員 全く上と同じことを言ってもしょうがないので、そこはむしろ東海、東南海、南海という引き分けをした話にしてもいいのかなと思っているのです。だからそういう疑問は確かにあるわけで、そういうスペシフィックな問題に対する問題をここに用意したことに関しては、そんなに抵抗はないのです。

○山岡座長 どうですか。だからそういう表現は書いておくことが大事である。後ろのほうだし、いいかなと思います。

○横田参事官 「複数の領域が連動」。

○井出委員 「で発生する」。果たして連動が要るか。

○堀委員 連動というのは人によって同時だと言っているもので、使わないほうがいいですね。

○下山参事官補佐 反映したバージョンで読み上げます。

「この場合においても、東海、東南海、南海のいずれの領域で地震が発生するか、あるいは複数の領域で同時に発生するか等、発生する地震の規模の予測は困難である」。

○堀委員 規模が横方向の領域だけで決まるという前提で書いているように読めてしまうのですけれども。

○横田参事官 「発生する地震の領域や規模」ですか。

○山岡座長 とりあえずここでは「等」を使いましょう。多分こういうことを5年後か10年後にやったら、もう少しここは精度よく表現できると思うのだけれども、現状はこのぐらいがいいかなと。

○横田参事官 「地震が発生する領域やその規模」ですね。

○橋本副座長 東海、東南海、南海って鍵括弧つけたらだめですか。

○山岡座長 これは変ですよ。そうするとまた違うことを言っているのではないかと思われるので、ここは素直にこのほうがいい。

- 橋本副座長　そういうふうアイデンティファイしてできているから。
- 井出委員　東海地震とか書いてあったらまずいと思うけれども、東海地方というのはあるから。
- 山岡座長　過去10年間慣例的に使われてきたので、ここはしようがないかなと思います。
- 橋本副座長　サイエンスな言葉ではないのだけれども。
- 井出委員　サイエンスの言葉だったら東海はいいかもしれないが、紀伊半島沖とかになるのですね。東南海というのが一番だめなのです。
- 山岡座長　そこは我々側が解釈すればいいことになりますので、ここはこの表現にしましょう。よろしいですか。
- 若林企画官　ニュアンスの問題なのですけれども、先ほど「一般的には」と入れたところなのですが「は」を入れるかどうかでニュアンスが結構変わるのです。一般的にはこうだけれども、こうすればこうなると言えば「一般的には」でいいのですけれども、困難というのをある程度続けて書くのであれば「一般的に」のほうが。
- 横田参事官　頭に「一般的に」と来たほうが読みやすいかもしれない。
- 井出委員　ニュアンスはどちらなのですか。困難はずっと困難なのですか。だけれども、こうすればこうということ言うことではない。
- 横田参事官　一般的に困難である。
- 橋本副座長　「決定論な手法により」なので、本当は「一般的に」も要らない気がします。
- 横田参事官　決定論的手法が一般的に困難だという話だと思うので。
- 堀委員　やはり先頭に持ってくると、次の文と対比しているように見えてしまうのです。つまり一般的には困難である。でも南海トラフ域はというふうに読めてしまうので、でもここで言いたいのは今まさに言われたように、決定論的な手法による予測が一般的に困難なので「一般的には」は後ろのほうがいいと思います。
- 横田参事官　後ろに入ると「一般的に困難である」。
- 堀委員　「決定論的な手法により」にかかっている話ではないように読めるということですか。
- 横田参事官　そこでは「一般的に」は要らないですね。
- 山岡座長　よろしいですか。
- 長尾委員　もっとマイナーなところでいいですか。
- 山岡座長　いいですよ、せっかくなので。ここはいいですね。まだメインは残っているかもしれないけれども。
- 長尾委員　用語集でVANというのがあるのですが、これだと「支持する観測事例もあるが、その後の検証により」ということなので、これだと実はたくさん検証も肯定的、否定的があって、Jordanはある意味一番客観的だということで挙がっているのだと思いますけれども、修正案として「この手法を支持する観測事例もあるが[Orihara et al., 2012]、否定

的な主張もなされている。[Jordan et al., 2011]」。2012がその後の検証というのはおかしいので「その後の検証により」を消して「否定的な主張もなされている」ぐらいだと非常に助かるというか。

○山岡座長 両論併記ですね。

○橋本副座長 VANでいいのですか。

○長尾委員 VAN法のほうがいいかもしれません。

○山岡座長 ここは両論併記になるように書いておけばいいと。

○長尾委員 両論併記もなのですから、Jordanが一番最後ではないので。

○山岡座長 ほかに何かありますか。

○橋本副座長 「モーメントマグニチュード」は中ポツか何か入れないですか。

○山岡座長 これは用語上どうなのですか。

○横田参事官 続けています。点は入れていません。

○山岡座長 一応チェックをしておいてください。

ほかにありますか。

○松澤委員 今さらなのですが、考えていたのは多様性があると言いながら、津波地震のことを何も触れていないのですけれども、よかったですか。

○長尾委員 本当は多様性で津波地震のことを入れないと、要するに今はある意味短周期の地震動が発生する地震だけが、どういうふうな組み合わせで起きるという形で、1490年の明応ももしかすると津波地震で、1カ所だけ入れるとおかしいし。

○橋本副座長 影響はモデル検討会ではいろいろ議論がありますね。

○松澤委員 そういうことであればよろしいです。

○山岡座長 堀さんはどうですか。特に慶長のような津波地震は触れていないけれども。

○堀委員 先ほども言いましたけれども、多様性と言ったときに横方向だけでとか浅いところとか津波地震というのは。どうなのですかね。

○井出委員 できると言ったときに、それをほかにも考えるというのはあるのだけれども、今、既にほとんどできないと言っているのに、さらにもっと難しいものをあえて言う必要があるかという点。

○堀委員 多様性の中に入っているという。

○井出委員 書き方ではいろいろ「など」とか入っているので、その「など」に入ってしまう話ではないかと思います。

○山岡座長 今回はそれで済ませて、ひょっとして10年後ぐらいにそういうふうになったら、そういう議論が出てくるのかなと思います。

ほかに何かありますか。

○下山参事官補佐 事務局で修正しておいて、また戻す形なのですが「2. 東海地震対策と観測体制の現状等」の3段落目です。「しかし」となっている部分で「使用するモデルやパラメータに大きく依存する」を平易な表現とする修正案で「仮定する条件に大きく依

存」としたのですが「仮定する条件」がやはりわかりにくいかもしれないです。これは元に戻して「使用するモデルやパラメータなど仮定する条件」でしょうか。仮定する条件だけでは何だかわからないです。

○山岡座長 条件は要らないです。「仮定に」。

それでは、大体メインのところは終わりだと思いますので、それでは、皆様ありがとうございました。

事務局いいですか。

○横田参事官 モーメントマグニチュードの表記について、今、ポツがあるかどうか確認しました。どうやらポツを取っているものが多いそうだけれども、ポツが残っているのもあるようだ。これからどちらかに統一しよう。

○山岡座長 それは事務局で決めてください。

それでは、皆様どうも活発な御議論ありがとうございました。

これで本日の議事は終了いたします。これまでの議論の中で各委員から多数の有用かつ建設的な御意見をいただきまして、この調査部会の報告案を取りまとめることができました。細かな表現等まだ幾つか修正する点があるかと思いますが、基本的には調査部会の報告として本日の修正した報告案でいきたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいですか。

(「異議なし」と声あり)

○山岡座長 ありがとうございます。

それでは、事務局から今後のことについて御説明をお願いいたします。

3. 閉 会

○藤山参事官 どうもありがとうございました。

当初は4回と言ってお誘いしたのに8回になってしまいました。お詫び申し上げます。御協力感謝いたします。

本報告は事務局できょうの御意見を踏まえて、もう一度修正してまたお知らせしたいと思いますので、メール等で送付させていただきます。表現等につきましてさらに御意見がございましたら、また事務局にお伝えいただければと思います。

一番最初にも申し上げましたけれども、公表の日程や方法については追って事務局からは決まり次第、御連絡したいと思います。しばらく公表いたしませんので、大変申しわけないのですが、取り扱いについては委員の皆様方、注意をしていただきたいと思います。ぼろぼろ出ますとまたそれがかえって変なことになるのではないかという心配をしております。言わずもがなでございますが、よろしく願いいたします。

以上をもちまして、これまでのこの部会に対する御協力に感謝いたしまして、部会を閉じたいと思います。どうもありがとうございました。

一応、上の会のワーキングが1月29日に予定されております。全体の報告というよりも8ポツが主体になると思いますけれども、山岡座長から報告していただいて、また、取り扱いについてワーキングでどうするかという御議論をいただいた上で、その後どういうふうな形で世の中的にお示しするかということになるかと思っておりますので、またその結果も含めまして御連絡したいと思います。